

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2008年10月20日 午前10時15分～11時00分

講演者 出町明 氏（東京農業大学学術情報センター事務室長補佐）

テーマ 東京農業大学における資料電子化の取り組みについて
～明治・大正期卒業論文の保存と公開を中心に～

講義内容

1. 在職期間（26年間）における大学図書館の変化

- 昔からの図書館：「図書館」「アーカイブ」

資料媒体：紙ベース

- 新しい図書館：コンピュータ化された「電子図書館」

資料媒体：電子ベース(eジャーナル、データベースなど)

- 現在の図書館：「図書館」＋「電子図書館」＝「ハイブリッド図書館」

資料媒体：紙ベース資料の減少と電子ベース資料の増加

* 「電子図書館」機能の拡大が進む中、最近「アーカイブ」機能が注目されている

- 古い貴重資料の保存と公開の重要性
- 電子ベース資料では得られないブラウジングの効用が、紙ベース資料にはあるのではないか

2. 東京農業大学における資料電子化計画とその成果

- 平成12年度から所蔵重要文献の電子化計画を検討

電子化にあたっては、「なぜ?」「なにを?」「どこから?」「どこまで?」の観点で検討を重ねた

- 私立学校振興共済事業団の高度情報化推進費特別経費「教育学術コンテンツ - 教育学術情報データベース等の開発」についての補助金を申請し、電子化を進める補助金の獲得には、電子化コンテンツの情報公開が必須条件である

- 厳しい予算状況の中、平成13年度に電子化（初年度）予算として500万円を経常、その後現在まで同額の予算により、事業は継続している

- 成果（詳細はレジメ別紙参照）

- ・「農大新聞」：大正15年～昭和60年まで刊行（平成13年度事業）
- ・「貴重書コレクション」：所蔵貴重書（江戸～明治時代の農書など）34タイトル（平成13年度事業）
- ・「卒業論文」：明治34年～昭和18年までの約7900件を図書館で受入、保管していたが、その内現存するのは、明治34年～昭和4年までの約2600件で、明治期491件の電子化から開始（平成14～16年度事業）、その後大正昭和期2071件を継続中（平成17年度～）

3. 電子化事業を実行してみて

- ▣ 「ひと」「もの」「かね」の確保なしには事業は実行できない
- ▣ 継続事業として電子化に取り組むには予算の確保が大きなネックになるが、少額予算で少しずつ取り組み、成果を積み重ねることが重要である（私の教訓：遅々として進む）
結果として、確実に資料の保存と情報公開が実現でき、いつかは大きな成果として学内外に貢献できる

まとめ

- ▣ 「もの」「かね」など、状況により変化して維持できないものもあるが、「ひと」は、どのような状況でも育成することは可能である
「ひと」がいることにより、事業は持続可能になるのではないか？